

・・・雨でも休まず、286, 287回・・・

### 「小原本陣の森・若柳嵐山の森」

- ・定例活動1：7月 4日（第一日曜日）；小原本陣の森、森林整備活動、担い手育成、技術向上。「持続的森林経営：森林地団地化・集約施業」を目指す。弁当持参、参加費：400円
- ・定例活動2：7月18日（第三日曜日）：若柳嵐山の森・里山交流、多様な森林活動、主食・自分のお椀・箸、飲料水。参加費400円

- ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
- \*注意1：初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合、汚れても良い服装着替え、滑らない靴成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証飲料水、主食；自分の食器(お椀・お箸・何か美味しいものを準備する)
  - \*注意2：危険管理・救急体制・森林ボランティア保険他、会として可能な限り体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

### 環境問題：明らかに変化の兆候あり

年を追ってNPO活動の評価が、良い方向に向かっているように感ずる。特に今年になっていくつかの大手企業から森林の荒廃問題を“協創＝協働創造”して解決しようではないかとの呼びかけがある。鳩山前首相がNPOを「第三の公共」として活かそうとの呼びかけに端を発して、「経済・財政の立て直し」以外に「環境・福祉・医療」が声高に言われるようになった事にもよるだろう。

数日前、事の意外さにびっくりしたことがある。  
最近知り合った人に森で出会った。この人が「もう、人間の先行きも心配な状況に近づいてきてますねえ」  
「えっ、何が？、どうして?!」  
「だって、今のままの状態ですら地球から森林が減っていくと300年～500年位で森が無くなってしまいうそじゃないですか。森が無くなれば、空気も水も無くなりますからねえ」

空気・水の問題が、こんな自然な形で突然、話が出てきたのは初めてだが、普通の人こんな、事を言い出す世の中になって愕然としている。「大丈夫ですよ。人間はそんなに愚かではない筈です。毎日のように新聞やTVで解決策の報道が出ているじゃないか。必ず、生き延びる技術を開発する筈です。諦める気持ちにならないことが生き延びる唯一の道です。

今年2月、県のシンポジウムで知り合った三井物産CSR室とは、このような問題をNPOとも一緒に考えたいと声をかけられた。大きな企業がCSRの観点か声をかけて来てくれているのだから、それをシッカリ受け止めて行きたいと思う。

## 定例活動；小原本陣の森：6月6日（日）

Forest Nova☆ 麻布大学3年 神宮理沙

6月に入り、先月の気持ちのいい陽気から一転、とても暑くなってきました。  
今回Forest Nova☆は4人の参加でしたが、また1年生に新しい顔ぶれが増えました。



今日は1日中、中里山の林床整備を行いました。いつもは沢を渡ってから左側の斜面を登って行って作業を行いますが、今回は沢沿いの道を行って、そこから斜面を上がる形で作業を行いました。

沢伝いの道は長いこと使われていなかったらしく、倒木だらけでかなり荒れていました。

中里山の斜面がきついことは知っていましたが、今回は今までの中で一番傾斜の厳しい中での作業になりました。沢から斜面を上がる時は、手をつかないと登れないくらいです。それでも誰も怪我をすることなく作業を行うことができてよかったです。

緑のダムの方たちは沢の右側の斜面を、Forest Nova☆のメンバーは沢の左側の斜面の土留めを行いました。

6月でも杉林の中は涼しく、作業中はそれほど暑さを感じませんでした。私たちが作業した斜面にはそれほど下層植生が多いわけではありませんでしたが、それでも色々な植物が花を咲かせていて、上を見上げると桑の実もなっていました。まだ食べるにはすこし時間がかかりそうです。



みんな作業に熱中し、作業が終了したのは15時を過ぎていました。その後基地まで沢を下り、1日が終わりました。

6月6日の日曜日に武蔵大学にて行われた「若者と市民の環境会議」にForest Nova☆の2年生と1年生で参加してきました。若者と市民の環境会議ということもあり、エココンなどとは違って学生だけでなく、中学生から大人まで幅広い年代の方々が参加していました。その中で、「地球温暖化の防止」、「生物多様性の保全・再生」という二つのテーマでそれぞれが発表を行いました。私たちForest Nova☆は、生物多様性の面から活動紹介を行ってきました。



この発表で、私たちは「生物多様性の失われていく森の現状を知ってもらいたい」、「森の現状を身近な人たちにも伝えて欲しい」、「積極的に国産材など利用したモノを使って欲しい」という三つのことを伝えてきました。

二つ目の「森の現状を身近な人たちにも伝えて欲しい」と言ったときに付け加えた“伝えることも行動のひとつです！”というフレーズは参加者の方々に覚えていただいたようだったので、この三つのことも覚えて実践してもらえたらと思います。



うれしいことに参加していた高校生は、Forest Nova☆の活動理念である「森と人の共助共生が当たり前になる社会の実現を目指す」が自分の研究テーマなのだと言ってくれました。私たちの活動にも興味を持ってくれたようだったので、ぜひ一度森での活動に参加してもらいたいです。

この日は小原の活動日と重なっていたこともあり、2年生と1年生だけでの参加でしたが、最初から最後まで2年生が中心となって一つのものを作り上げることができたことは、とても良い勉強になったと思います。

.....

当会と行動を共にする。「フォレスト・ノバ」の行動は、森の中だけでは終わらない。国土緑推の主催する「日比谷公園や、代々木オリンピック公園」などの植樹祭にも出掛けて行く。この報告にも有るように高校生や、大人から随分と声をかけられている、8月には、中国から青少年が40から50名当会の森を見学する事になっているが何んでも、日本人は森林の保全再生をどうしているかを中国語で「紙芝居をして見せるそうだ。(石村)

## 定例活動；若柳嵐山の森：6月20日（日）

この梅雨空に若者であふれる“若柳嵐山の森”

天気予報では、活動当日は午前中は雨、50%の予報であった。夜半、雨の軒先を打つ音で目が覚めた。「雨か!」。目が覚めてたら、雨は止んでいたが、雨を感じさせる曇天で有った。集合地の相模湖駅では雲は随分、高くなって雨の気配は遠のいていた。



会員参加21名、フォレストノバ15名、早稲田10名、緑のダム体験学校は、子ども7人を含み6組17名、みんなの森2名、神奈川新聞取材1名。計66名?。おかしいなあ〜。この賑やかさは80名を感じ。

受ける印象は殆ど若者の森。雰囲気は澁刺としていて心地よい。早稲田と班組み合わせ体験学校医の臨時組み合わせに工夫して、午前中は斎藤会員が体験学校を引き受け、学生連合ノバ・ベテランが早稲田を引き受ける。午後は、子どもだけを「みんなの森」が引き受け、親は斎藤会員が引き受けた。子どもから解放されて親御さんが急にイキイキと輝いてくる。

新聞記者の香川さん・・・「驚きましたねえ〜、若い人だらけじゃないですか!。他の団体ではない現象ですよ。何でしょうかねえ」

「さあてねえ〜、何んでしょうかねえ〜。私の受けてる印象は、環境問題は大人に任せられない・・・てな事なんですがね。」

午後、子供たちを実に上手にお相手をしている「NPOみんなの森」の畠山さんに気が付いた。楽しく、おかしく、面白く相手をしている。森林体験に来ている子供からおふざけも多い。そここのところのつぼを押さえて自分の方に集中させる。悪ふざけの子には「こっらっ!!、キチンとしろ!“と、その子のお尻を真剣な大きな声を上げながらバシンを大げさに叩く。子供たちはビックリして背筋を伸ばす。

そのやり取りが面白くおかしく、周りに大人が集まってくる。むしろ、子供の遊ばせ方、叱り方教室が自然に臨時に開校した様子。



最後、終礼時は、初参加者に体験の森の印象を聞くのだが、初体験印象発表会には、この子供たちが「ハイッ、ハイッ！」と手を挙げて、正面にでて来て発表をする。  
 「面白かったです！」「ヤマちゃんが良かったです」「ヤマちゃんが優しくかったです」  
 「また、来たいです」・楽しく散会した。・・・・・・活動終了後は、第8期通常総会)

## 第8期：通常総会・(活動13年目)

日時 平成22年6月20日、午後4時～5時15分

場所 相模湖交流センター2F, A・B会議室

議題 1号議案 21年度、活動記録、収支決算(財務諸表)  
 2号議案 22年度、活動計画、損益計画  
 3号議案 役員改選  
 4号議案 会費一部変更

・会員総数88名、出席者18名+委任状33通、参加総数51名で成立

・経過報告

1、21年度活動記録、22年度活動計画は、共に映像(CD/PP)により報告

2、1号議案；

貸借対照表	資産	7,626,065	負債	479,080円	
財産記録	資産	7,626,065	負債	479,080	正味財産 7,146,985
収支計算書	収入	17,894,543	支出	13,852,467	収支差額 336,610
2号議案	収入	9,915,000	支出	9,915,000	収支差額 +-0

：\*22年度も収入予算は未だ確定出来ていない。FSC第2期審査額も相当、影響する・収支トントンで行ければよいが……。

3、3号議案

役員改正	代表理事	石村 黄仁	理事	川田 浩
	理事	鈴木史比古	理事	内野 郁夫
	理事	丸茂 喬	理事	永井 広紀
	理事	斎藤 憲弘	理事	宮村 連理

#### 4, 4号議案

入会金・年会費は現在、3000円ですがニュースレター発送と保険で全く余裕がありません。読者は成るべくウェブでの閲覧へ切り替えてください。郵送者は年会費1000円、9月から値上げさせていただきます。

総会はスムーズに進行して、全て順調に推移した。ありがとうございました。

### 北沢ホールで、環境問題を語る

林業協会の代表をしていた山縣さんからご依頼があって、90分の講演と30分の意見交換会開いた。主催者は「世田谷の森林ボランティア・サンサンの会」と参加者は一般募集の50人の聴衆あった。90分のおしゃべりでは、内容をよくしたいと宮村さんの応援を得てつくった90分パワーポイントが威力を発した。これまでパネラーや司会役の経験はあるが講師は、初めてでどうなるものやらと気が進まなかったが、VTRの効果満点、日ごろ、想っていることを筋道立ててキチンと時間に収まった。質疑も活発で時間を超過してまった。もう、兎も角、一人でも多くの方が森林の保全・再生に目を向けねば、待ったナシ!、になりつつあるのだ。最後、年配の方が「頑張ってください」と言われたので「あなたが立ちあがらねばならない、あなた自身の問題ですよ」と云ったら心なしか、会場に緊張が走った。受け手が反応してくれる講演会を大いに実践したいと新たな経験であった。(石村記)

### 今月の小原本陣の森、若柳嵐山の森から



小原本陣の森より  
道具小屋横のシイタケ。  
丸々のシイタケをそれぞれ持ち帰っておいしかった。



若柳嵐山の森より  
オランダチューリップ協会から頂いたチューリップが花開いた（左上）。  
緑のダム体験学校（左下）。  
満開のハナモモ（右）

## 海辺くらし・里山くらし

小学校に2年生から4年生までは福岡の深江と云う磯辺・浜辺で育った。と云うより生きていた。家が貧しかったので育ったと言うより“生きていた”と云う印象。冬場は寒さを堪えて、岩場の海に潜ればえさに有りつけた。冷たければ魚も動きが悪い。手槍の水中鉄砲で割に楽に突けた。ウツボやギュギュウは怖かったが、凶暴なウツボは魚体が大きく満腹もさせてくれた。嵐の後の早朝の海岸も獲物の宝庫だ。大型の魚が浜に打ち上げられていたし、河口幅3mばかりの小川の嵐後は、砂でせきとめられて内側は池になっており、そこに流れ場をつくれば水が流れ出して小魚が落ちてくる。狙いを定めショウケ（網籠）で一網打尽にする。

最後が楽しみだ。流れが浅くなって海と川の境目に砂が溜まっている。そこを手探り・足探りで毛ガニを探りだす。毛ガニは飛びきり上手い。ナマで食べてえらい下痢に悩まされて以後、旅館に買い上げてもらう術を覚えた。4月頃から若芽ワカメ新芽も焼いて食った。コリコリ、つるつると上手かった。

終戦直後の昭和21年～30年の頃である。だから、みんな貧しかった。都市では、餓死したという子もいた。その点、海辺くらし、里山くらしは幸運で有った。子供は餓死しない方法を自然から学んだ。と云っているも満たされてはいない。やせ細っている子供に食べさせられない親の心痛を想う。

5年生から中学3年生まで里山・東油山村で育った。里山の春は、ハチク、ウド、

ヅイキを茹でて食べた。甘草、しん芽は何でも食べた。ウサギ・ノネズミ・・・ヘビは固かった。マムシは生臭いが我慢すれが上手かった。タヌキは怖かった。ザリガニは田んぼの水路で幾らでも捕れた。農家の目を盗んでキャベツ、新じゃがいも良かったが見つかりと大変なオシオキがまっている。家族共々、村八分を覚悟しなければ成らなかったのが慎重に盗んだ。かかしが怖かった。捕まった事はない。夏はパットしないが秋は天下様だ。クリ、かき、山桃、アケビ、山ブドウ、カンゴ、山芋、今は禁止されているスミ網で山鳥を捕った。山イチジクを食べ過ぎて10日程、高熱で込んだ。どういうわけか金玉が西瓜のように腫れた。子種には影響がなかった。里山は、木の実・草の実・小動物、薪、薪を背負って小金になった。腹が空いたら田んぼに入って、生米を噛んだ。麦は噛むほどにチューインガムのようにになった。沼地は子供には底なし沼でハスには手が出なかった。畑泥棒もあった。芋は主食だ。

海辺、山辺も子供たちを、育ててくれた。自然は今は何処へ行ったのだろうか。

(石村記)

## 木工班員（見習い）・2名募集

特典 1、木工道具が自由自在に使えるようになります

特典 2、完成時に達成感が大いにえられます。

応募条件 森林整備を1年以上経験済みの方

連絡先 棟梁：大坪浩一

080-5486-0460



- .....
- ・活動のモットー : 急がず、無理せず、楽しく、休まず、ボチボチと・・・  
そして、沢山の参加で森は、良くなる。(台風の日も勉強会開催。13年間、一日も休まず“継続は力”。)
  - ・名 称 : 特定非営利活動法人 緑のダム北相模
  - ・事 務 局 : 154-0023 東京都世田谷区若林3-35-9  
発行人: NPO 緑のダム北相模 運営委員会 03-3411-1636
  - ・URL : <http://www.midorinodam.jp> E-mail: [info@midorinodam.jp](mailto:info@midorinodam.jp)
  - ・協働団体 : セブン-イレブンみどりの基金、相模原市(市民協働推進課)、東海大付属・望星高校、生命の森宣言・東京
  - ・ご支援の団体 : WWF/JAPAN、イオン財団、市民社会チャレンジ基金、神奈川建具協同組合、JFEメカニカル、東急コミュニテイ